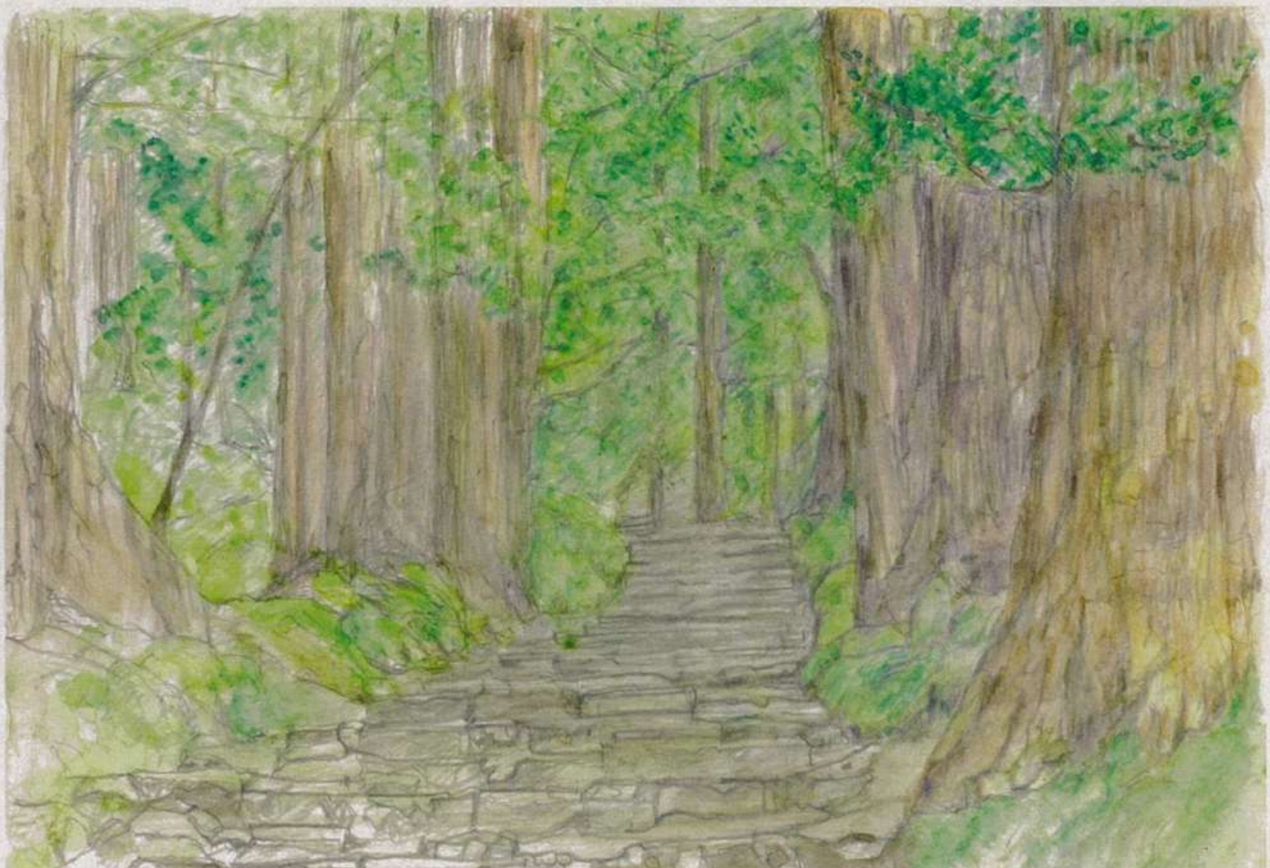
ISSN 0911-9132

あしなか

第参百参拾四輯　山村民俗の会

熊野信仰特集・その2



表紙解説

◆表紙絵は熊野古道・小辺路、果無峠に向かう林間の苔むした石垣と石畳の静かな道である。

◆小辺路は高野山と熊野の霊場を結ぶ全長七二キロ、三日ないし四日かかる一〇〇〇メートルを越える三つの峠越への山岳道である。三山への参詣道としては一番険しい。そもそもは紀伊山中の住人の生活道で、参詣に使われるようになるのは近世以降のことである。それももっぱら庶民で、天皇や貴族は伊勢路や海岸線を行く大辺路、田辺から三山を目指す中辺路を行ったようだ。天皇の熊野詣は京都から往復約一ヶ月間、後白河法皇は三四回、鳥羽上皇二一回、後鳥羽上皇は二八回参詣しているという。道中を支えた関係者の苦労が思いやられる。極楽浄土への願いは尋常ではなかったようだ。

◆小辺路は杉の巨木や苔むした石垣が残る昔ながらの山道で「修験の道」とも呼ばれる。私は体力とスケッチなどでの道草を考えショートカットして十津川村から歩く。果無峠までは上りが続く厳しい道だが、観音石像やうぐいすの鳴き声が疲れを和らげてくれた。

私は故なく神武の熊野越えはこの道だったのではないかと思った。（佐藤碩男）

あしなか
第参百参拾四輯

〈熊野信仰特集〉その2／目次

令和8年2月刊

〈表紙解説〉熊野古道「小辺路」スケッチ図（佐藤碩男・画）……佐藤碩男

十津川の三浦峠とヒダル神〈後編〉……山田隆夫 1
―昭和四十九年、旧「熊野街道」採訪記―

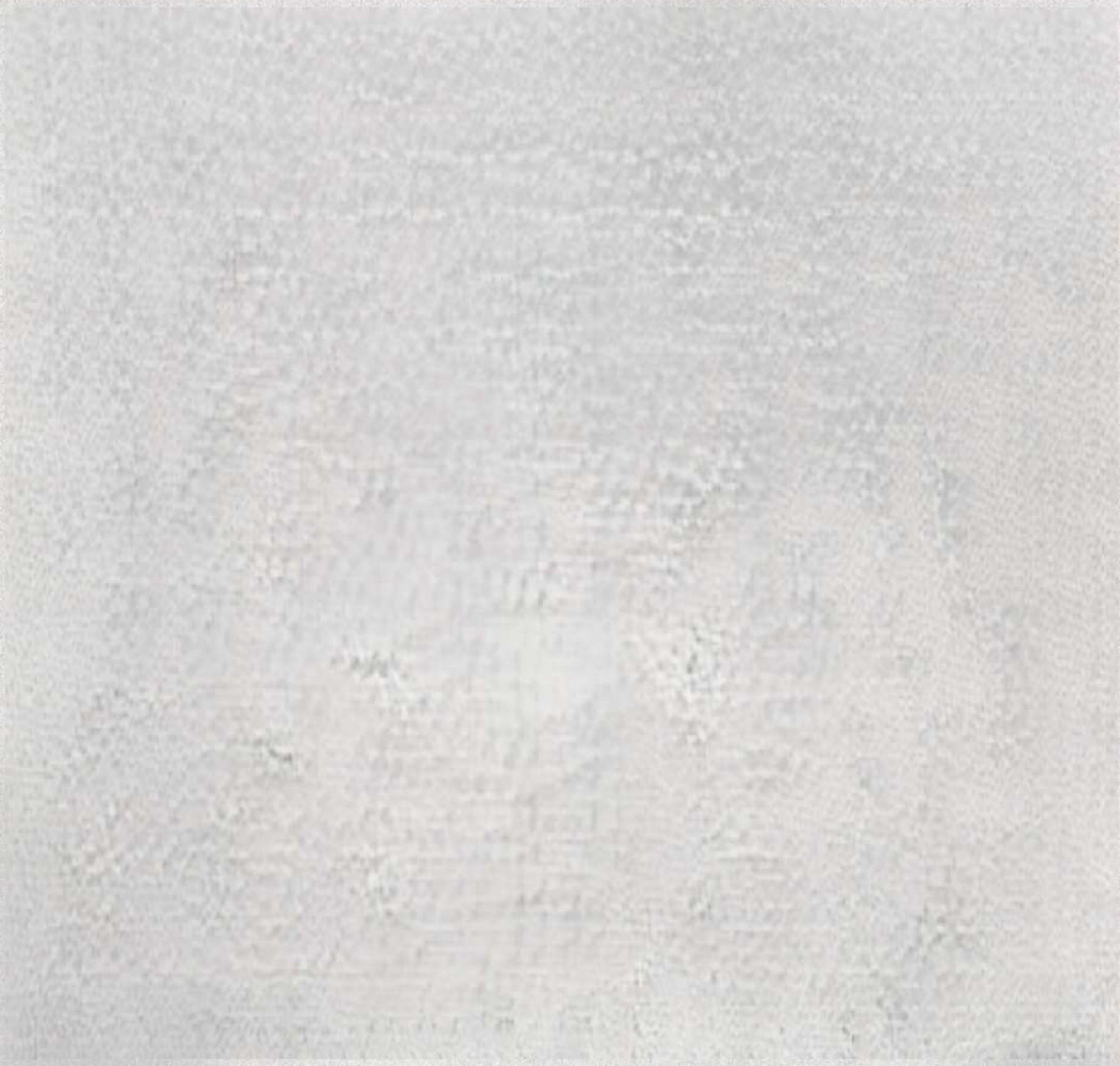
山田隆夫先生の民俗学〈後編〉……浦西勉 6
―「十津川の三浦峠とヒダル神」の頃―

熊野行雑話―熊野路スケッチ紀行の旅……佐藤碩男 9

東京山ノ手・音無川辺りを歩く……荒井俊昭 13
―王子権現周辺に「熊野」の痕跡を探る―

「御牛王殿」と宇佐美熊野三社……岡倉捷郎 17
―建立者・藤原爽家成の実像と「熊野山」の謎―

会員異動 23
寄付御礼 23
令和七年度収支報告 23
寄贈刊行物 23



年会費七千円（原則前納です）

会費振込みをお忘れなく

二〇二六（令和八）年二月刊　非売品
『あしなか』第参百参拾四輯　'26—1
発行　山村民俗の会
編集　岡倉捷郎
印刷　(株)ヌーベル社
東京都千代田区神田神保町一—六四
電　話　〇三（三二九一）七〇〇一
乱丁、落丁の場合はお取り替えします
since1938